



いちのせき ほん でら

一関本寺の農村景観

No.03-01

所在地：岩手県一関市
面積：344.2 ha

選定年月日：平成18年7月28日、平成27年1月26日追加
選定基準：二(一)(八))

(1) 概要

岩手県南部の栗駒山(くりこまやま) (標高1,627m) 東麓に水源を発する磐井川(いわいがわ)の流域には、河岸段丘から成るいくつかの小盆地が連続し、豊かな農村地帯が展開しています。そのうちのひとつが一関市の本寺地区で、特に中世平泉の中尊寺経蔵別当領に関係する骨寺村(ほねでらむら)荘園遺跡の諸要素が良好に遺存するとともに、近世・近代を通じて継続的に営まれてきた稲作、近代に始まった炭焼きなどの農林業を通じて、緩やかに発展を遂げた岩手県南地方の農村の文化的景観を示す区域です。

居住地とその周辺の農耕地及び里山は豊かな生態系を維持し、丘陵裾部の居住地に近接する区域には、比較的小規模で不整形な区画から成る水田が残されているほか、微地形に沿って巡らされた用水系統にも緩やかに変転を遂げた農耕地の姿が窺えます。また、水田地帯の微高地に散村の形式で展開する各農家は、北西より吹き付ける強い季節風から家屋を護るために、イグネと呼ぶ屋敷林が巡らされています。

このように、本寺地区の農村景観は、特有の歴史的起源に基づきつつ、この地に独特の気候・風土を踏まえた農耕と居住の在り方を示す貴重な文化的景観です。



全景



微高地に散居的に点在する農家と、川沿いに広がる水田

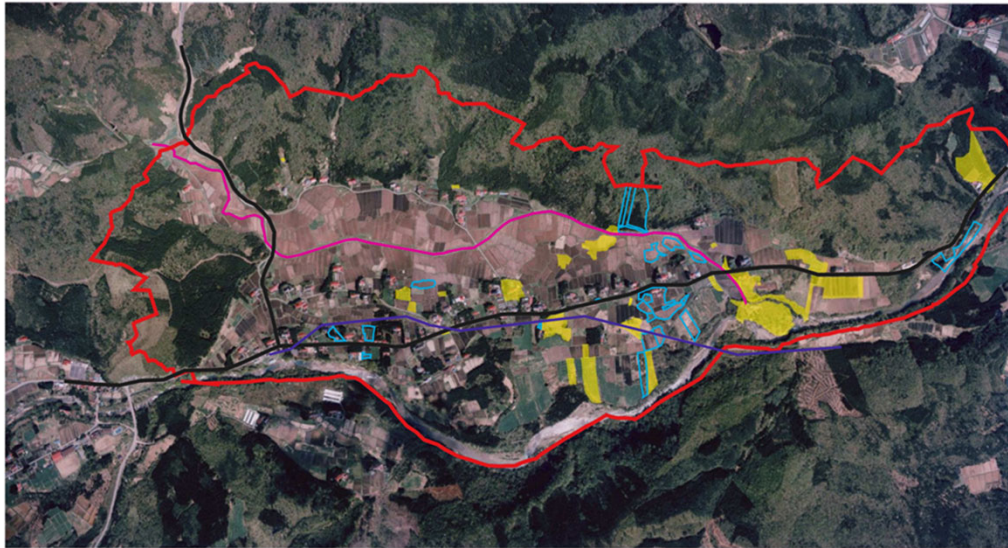


自然地形に沿って湾曲した水路



イグネ(屋敷林)に囲まれた農家

（２）選定範囲



- ・ 重要な構成要素：重要建物51件
- ・ 国指定等文化財：骨寺村荘園遺跡（史跡）

（３）選定による効果

本寺地区では、農村景観の維持と地域営農の両立を図るため、平成20年から景観保全型農地整備事業が開始されました。県や市の支援により、曲がりくねった畦畔を残した区画整理などを実施し景観を保っています。

また、住民が主体となって「古代ロマンに満ち溢れた骨寺村」をテーマに景観を保全していく取り組みを行っています。不整形な水田や土水路を守るため、住民組織である「本寺地区地域づくり推進協議会」と土木業者で土水路整備の協定を結び、清掃活動を行っています。伝統的な小区画水田を活用した田植えや稲刈り体験を通じ、子どもや学生に一関本寺の農村景観の価値や地域の文化を伝えています。さらに、中尊寺経蔵別当領であった経緯から、本寺地区の収穫物を中尊寺へ納める「中尊寺米納め」を協議会主催で毎年開催しています。こうした活動を通じて、多くの関係者となつたりができて農村景観の価値が伝わり、そこから農村景観の維持にもつながっています。



春と秋に行われる土水路清掃



本寺の後継者

（４）保存活用計画などの基礎情報

- ・ 一関本寺の農村景観保存計画（平成18年3月、一関市）
- ・ 史跡骨寺村荘園遺跡保存管理計画書（平成18年3月、一関市）
- ・ 骨寺村荘園遺跡整備活用基本計画（平成19年3月、一関市）
- ・ ホームページ

<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/index.cfm/7,0,125.html>

（５）活用事例

事例03-01 ①

地域づくりの原点となった「夢語り」・「夢づくり」のワークショップ

●行政による取り組み

特色ある自立した地域づくりを支援するため、広田純一現岩手大学名誉教授の指導のもと、市、学生、住民によるワークショップを開催しました。

平成14年度に「お宝マップ」を作成し、住民が地域の特色をどのように認識しているかの掘り起こしを行いました。

これを基に平成16年度には、住民が立ち上げた「本寺地区地域づくり推進協議会」を中心に、「夢語り」として本寺地区の将来像について語り合い、荘園遺跡を学び、歩き、地域おこしにつながるアイデアを出し、「平成の大絵図」を完成させました。

「夢づくり」として、協議会はこれらのアイデアを5つの実践チームに分けて活動を行いました。田植えや稲刈り体験交流、環境整備、広報、商品開発、特産品販売などを実践し、現在の地域づくりにつながる取り組みを生み出しました。（事例03-01②参照）

夢語りに参加した住民の声

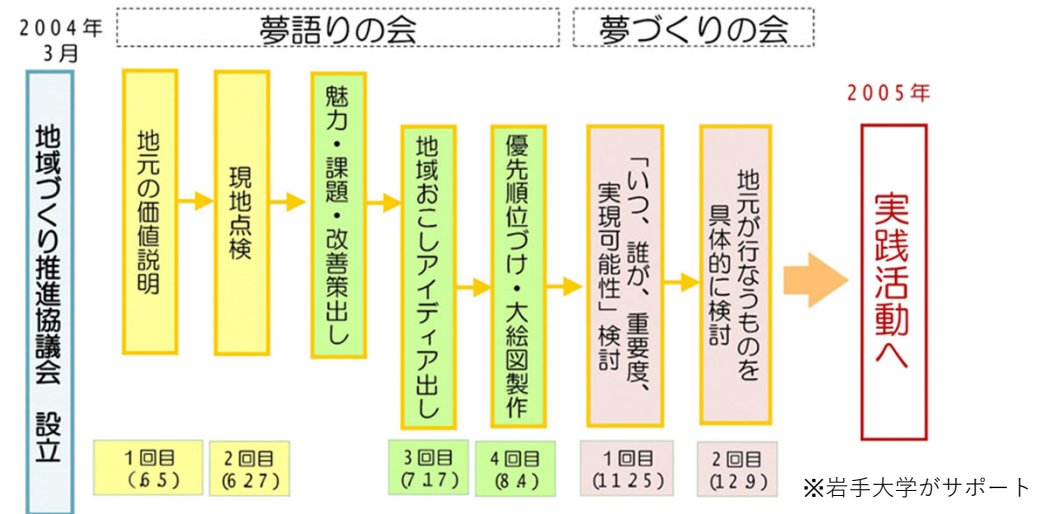
あの頃は集まった人皆が若くて活気があったと感じています。本寺地区のお宝は、昔ながらの水路やほんによ、神社などがあって、夢語りを通じて、地域の魅力を再発見できました。



「骨寺村荘園の里夢語りの会」ワークショップの様子



「骨寺村荘園の里夢語りの会」が完成させた平成の大絵図



本寺地区地域づくり推進協議会の初期の活動に位置付けられる「地域づくりワークショップ」（平成16年度）

① 地域内での魅力の共有

② 活性化の目標の共有

③ 地域外への広報

④ 魅力を引き出す

⑤ 財源の確保と運用

⑥ 人づくり・人育

(5) 活用事例

事例03-01 ②

本寺地区地域づくり推進協議会による「夢づくり」への挑戦

●住民や団体等による取り組み

「夢語り」・「夢づくり」のワークショップを経て、地区内に日用品が買える店や誰もが気軽に立ち寄れる場所がほしいといったニーズが高まりました。（事例03-01①参照）

本寺地区地域づくり推進協議会は、地域コミュニティの場をつくろうと、当時の女性部を中心に郷土料理レストランや産直が検討され、平成23年には住民からなるガイダンス運営協議会が設立されました。国の農産漁村活性化プロジェクト支援交付金を活用し、地域振興と骨寺村荘園遺跡の情報を発信する活動拠点施設「骨寺村荘園交流館 若神子亭^{（わかみこてい）}」（休憩所、交流館）が誕生しました。

ここを拠点に、安全でおいしい骨寺村荘園米、特産品として生産されている糖度の高い「南部一郎かぼちゃ」をはじめとした農作物やその加工品などの販売、米オーナー制度の運営なども行われています。夢を実現する取り組みは、数多くの評価を受けながらも、今も地道に続けられています。

- ✓ 国土交通省「都市景観大賞」景観教育・普及啓発部門優秀賞（平成26年）
- ✓ NPO法人一関文化会議所「一関文化奨励賞」生活文化部門（平成26年）
- ✓ 一関農林振興センター「一関地方農林業賞」（平成26年）
- ✓ 国土交通省「手づくり郷土賞」一般部門（平成29年）
- ✓ 農林水産省「農林水産祭」むらづくり部門天皇杯（平成30年）



地域振興の拠点となる骨寺村荘園交流館



骨寺村荘園交流館でのもちつき体験交流

骨寺村ガイダンス運営協議会会長の声

当初は素人集団で施設運営をやっていたのか不安だらけの手探り状態でしたが、遺跡や農村景観の素晴らしさを伝えるため、各種イベントを行い来訪者との交流促進に努めています。



絵図と現在の航空写真を照らし合わせられる情報発信スペース



南部一郎かぼちゃを練り込んだうどんなど、加工品開発も

団体等情報：本寺地区地域づくり推進協議会
<https://www.honedera.jp/index.html>

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり
・